



毎年 100 件以上発生 ～ストーブ・ファンヒーターの事故に注意！！～

1. 事故の発生状況

2016年度から2020年度^{※1}の間にNITEに通知のあった製品事故情報^{※2}のうち、九州・沖縄8県^{※3}でストーブ・ファンヒーター^{※4}の事故は、合計45件^{※5}ありました。

(1) 県別および年度別事故発生件数 (表 1)

表 1 ストーブ・ファンヒーターによる事故の県別および年度別事故発生件数 (2016～2020 年度) (単位：件)

発生日	福岡県	佐賀県	長崎県	大分県	宮崎県	鹿児島県	沖縄県	合計
2016年	5 (5)	0	3 (3)	0	1 (1)	2 (2)	0	11 (11)
2017年	3 (3)	1 (1)	5 (4)	0	2 (2)	1 (1)	1 (1)	13 (12)
2018年	3 (3)	1 (1)	1 (0)	0	1 (1)	0	0	6 (5)
2019年	2 (2)	1 (1)	1 (0)	0	2 (2)	0	0	6 (5)
2020年	4 (2)	0	2 (2)	2 (2)	0	0	1 (1)	9 (7)
合計 (内 火災件数)	17 (15)	3 (3)	12 (9)	2 (2)	6 (6)	3 (3)	2 (2)	45 (40)

(※1) 2016年4月1日～2021年3月31日の事故を対象とします。

(※2) 消費生活用製品安全法に基づき報告された重大製品事故に加え、事故情報収集制度により収集された非重大製品事故やヒヤリハット情報（被害なし）を含みます。

(※3) 熊本県は該当無しでした。

(※4) 本資料では石油ストーブ、石油ファンヒーター、電気ストーブ及び電気ファンヒーターの4種をまとめて「ストーブ・ファンヒーター」と記述します。

(※5) 重複、対象外情報を除いた事故発生件数です。

(2) 県別および被害状況別事故発生件数 (表 2)

表 2 ストーブ・ファンヒーターによる事故の県別および被害状況別事故発生件数 (2016～2020 年度) (単位：件) ^{※6}

被害状況	福岡県	佐賀県	長崎県	大分県	宮崎県	鹿児島県	沖縄県	合計	
人的被害	死亡	2 (2)	1 (1)	5 (5)	0	0	1 (1)	9 (9)	
	重傷	0	0	0	0	0	0	0	
	軽傷	3 (3)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	0	0	6 (6)	
物的被害	拡大被害	9 (8)	1 (1)	4 (3)	0	5 (5)	2 (2)	1 (1)	22 (20)
	製品破損	3 (2)	0	2 (0)	1 (1)	1 (1)	0	1 (1)	8 (5)
合計 (内 火災件数)	17 (15)	3 (3)	12 (9)	2 (2)	6 (6)	3 (3)	2 (2)	45 (40)	

(※6) 表2において人的被害と物的被害が同時に発生している場合は、人的被害の最も重篤な分類でカウントし、物的被害には重複カウントしません。製品本体のみの被害（製品破損）に留まらず、周囲の製品や建物などにも被害を及ぼすことを「拡大被害」としています。

(3) 県別および製品別事故発生件数（表3）

表3 ストーブ・ファンヒーターによる事故の県別および製品別事故発生件数（2016～2020年度）（単位：件）

製品	福岡県	佐賀県	長崎県	大分県	宮崎県	鹿児島県	沖縄県	合計
石油ストーブ	4 (4)	3 (3)	3 (2)	1 (1)	3 (3)	1 (1)	0	15 (14)
石油ファンヒーター	2 (2)	0	2 (2)	0	0	0	0	4 (4)
電気ストーブ	7 (5)	0	6 (5)	0	3 (3)	2 (2)	2 (2)	20 (17)
電気ファンヒーター	4 (4)	0	1 (0)	1 (1)	0	0	0	6 (5)
合計 (内 火災件数)	17 (15)	3 (3)	12 (9)	2 (2)	6 (6)	3 (3)	2 (2)	45 (40)

2. ストーブ・ファンヒーターによる事故事例

(1) 2016年10月（福岡県、40歳代、男性、拡大被害）

【事故の内容】

電気ファンヒーターを使用中、本体及び周辺を焼損する火災が発生した。

【事故の原因】

電気ファンヒーター本体側の電源コードプロテクター付近に、過度な応力が繰り返し加わったため、芯線が半断線状となり、短絡・スパークが生じて出火したものと考えられる。なお、取扱説明書には、「電源コードを傷つけたり、無理に曲げたり引っ張ったりしない。火災の原因になる。」旨、記載されている。

(2) 2020年2月（佐賀県、60歳代、男性、軽傷）

【事故の内容】

石油ストーブを使用中、本体及び周辺を焼損する火災が発生し、1名が軽傷を負った。

【事故の原因】

石油ストーブの燃焼筒が正常に載っていない状態で、火力が絞られ燃焼を続けたことで油受皿が熱せられ、芯調節器のガス抜き弁から出た未燃ガスに引火し、出火したものと考えられる。なお、取扱説明書には、「燃焼筒が正しくセットされていることを確かめる。」「就寝時は火が完全に消えていることを確かめる。」旨、記載されている。

3. 事故の実験映像について

事故の実験映像及び写真をご希望の場合は、下記の問い合わせ先までご連絡ください。

なお、映像をご使用の際、クレジットは「製品評価技術基盤機構」＋「NITEのロゴ」としてください。

（本件に関するお問い合わせ先）

〒815-0032 福岡県福岡市南区塩原 2-1-28
独立行政法人製品評価技術基盤機構
九州支所 担当者 矢代

電話：092-551-1315 FAX：092-551-1329